

平成30年度自己評価表

鳥取県立鳥取壘学校

<p>中長期目標 (学校ビジョン)</p>	<p>聴覚障がいのある幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズに対応した適切な教育を行い、自立と社会参加に向けて豊かな心とたくましく生きる力を育てる。</p>	<p>今年度の 重点目標</p>	<p>1 確かな基礎学力の定着を図るための学習指導の充実(学力向上) 2 自立と社会参加をめざしたキャリア教育の充実(たくましく生きる力の育成) 3 心身の健康と豊かな自己表現力の育成(心身の育成)</p>
---------------------------	--	----------------------	---

		年 度 当 初			評 価 結 果 (10)月			
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策	
確かな基礎学力の定着を図るための学習指導の充実(学力向上)	(教務) ○個別の年間指導計画を指導と評価・改善に生かす。	○教科等の個別の年間指導計画を作成し、単元(小中高)や活動(幼)のねらいに対して、指導の反省欄を設けて指導の充実を図っている。教科ごとに「つまづきの記録」を取ることも定着し、また学部会や教科会等を通して幼児・児童・生徒の共通理解が進んできており子ども達の指導に活かす資料として機能しつつある。しかし、内容にばらつきや偏りがあることが課題である。	○「つまづきの記録」の内容のばらつきや偏りをなくし、個別の年間指導計画を指導、評価、改善に活用して、授業を充実させている。	○学部会や職員会等を通し、個別の年間指導計画の運用やつまづきの記録の意義について、共通理解をはかる。 ○「つまづきの記録」などの、個別の年間指導計画のよりよい記載方法について、教務部内で検討する。 ○「つまづきの記録」について、定期的に入力状況を確認し記載を呼びかける。 ○授業の反省や子ども達のつまづきなどの情報は、学部会・教科会などで共有化する。	○「つまづきの記録」の運用に関して、職員会や学部会において説明し、周知・徹底に努めた。 ○記入は長文にならないように簡条書きに心がけた。 ○学部会、教科会等を通して、子ども達の情報共有や理解が進みつつあるが、記録の入力の呼びかけは不十分であった。	C	○今以上に効果的な活用方法を考えていくなら、進路部や研究部、自立活動部等の他分掌と連携する必要がある。 ○子ども達の様子について共通理解と評価の入力をする時間を学部毎に設定する。 ○年計記入締切を長期休業中に変更し、ゆとりを持って記入できるようにする。	
	(研究) ○聴覚障がい教育の専門性の向上を図る。	○聴覚障がいのある幼児児童生徒それぞれの個に応じた指導を行うことが求められており、聴覚障がいに関する職員研修一人1授業や参観ウィークを行い、授業力の向上に努めている。	○ニーズに合った研修を企画する。 ○参観ウィークや研究授業の機会に全教員が他学部の授業を参観する。	○聴覚障がい教育に関する職員研修を計画実施する。計画の際は、教職員のニーズを抽出するとともに校内研究と絡めた内容を優先する。 ○他学部への参観ができるよう、各学部で参観計画を立てる。 ○授業評価シートを見直し、授業改善を図る。	○教職員のニーズに応じて新学習指導要領を踏まえた指導・支援方法について研修した。 ○他分掌と連携して校内着任者や地域の学校の先生方に向けた聴覚障がいに関する基本的事項の研修を複数回行った。 ○参観ウィークには、参観計画を立てるとともに各学部で声かけをし参観しやすい雰囲気づくりに努めた。 ○評価シートは、学部の研究としての評価と教科の評価になるよう、各学部で検討した。 ○定期的に「授業の工夫・配慮事項」を自己チェックする時間を設けている。	○現在一人一授業を実施しながら指導の改善に結びつく評価となっているか検討を続けている。 ○授業評価シートは、今後も活用し基本的な留意点を意識して授業を行う。	B	
	(研究) ○幼児児童生徒一人一人の実態やニーズを総合的・多面的にとらえ、一貫性と丸性のある指導と支援をAPDCAサイクルで行う。	○幼児児童生徒の数は少ないが聴覚活用や認知特性などの実態は多様であり、そこに起因するコミュニケーションや言語獲得・拡充の困難さがあり、また基礎学力の定着にも課題を生じている。	○各学部ごとにチームで幼児児童生徒の実態把握をし、指導方法や支援方法を検討する。APDCAサイクルによる授業改善を繰り返し、授業力を向上させる。	○各種発達検査や日常観察を通して実態把握をする。 ○学部研究会でテーマに基づき、「育てたい言語力や思考力」や「目ざす子どもの姿」について話し合う。 ○実態把握から個に応じた具体的な指導や支援方法を考える。 ○学部研究会を通して幼児児童生徒の実態や指導法について共通理解をし、授業改善を図る。	○教育相談や通級の指導や支援方法について学部会や学部研などで情報交換をし、よりよい支援ができるように話し合っている。 ○話し合い活動に関する指導・支援の方法を整理し、教員間で共通理解を図りながら授業を進め、改善を続ける。 ○授業における発問の役割を整理し、どのような点に留意して発問を行うか話し合い検討を続けている。 ○学部会や職員室内での有意義な日々の会話を通して実態把握し共通理解を図り、支援方法を工夫して授業実践をしているところである。 ○学部研究会や日々の情報交換を通してめざす生徒の姿を育む指導となっているか話し合いを続けている。	○構音研修会で助言をいただき、実践に活かす。 ○一人一授業を実施し、適切な指導・支援ができていないか授業改善をしていく。 ○授業の中で発問をメモするなど、各自振り返りを続ける。 ○目ざす姿をもとに、どの教科も共通して取り組むことができる支援方法などについて検討していく。	C	
自立と社会参加をめざしたキャリア教育の充実(たくましく生きる力の育成)	(教務) ○個別の教育支援計画の運用に、キャリア発達段階表を連動させ、幼児児童生徒の支援を充実させる。	○キャリア発達段階表に連動した個別の教育支援計画の運用が軌道にのったが、キャリア発達段階表の活用状況は必ずしも十分とはいえない。	○ほとんどの教職員が個別の教育支援計画の運用に、キャリア発達段階表を活用し幼児児童生徒の指導に活かしている。	○個別の教育支援計画の運用等において問題点があれば、各学部の意見等を吸い上げ、個別の教育支援計画及び運用等をよりよいものへ改善していく。 ○学部会や職員会等を通し、キャリア発達段階表の扱い方・活用等について教職員の共通理解をはかる。	○「個別の教育支援計画」の運用に関して、職員会や学部会において説明し、周知・徹底に努めた。また、機会ある毎に見直し、日々の指導に活かすように努め、計画的に運用できつつある。 ○キャリア発達段階表の扱い方・活用等については十分な理解ができていない段階ではない。	C	○個別の教育支援計画と合わせて、ケース会議等でキャリア発達について確認するように呼びかける。 ○自立活動年計と内容が重複する部分があり、形式を検討してみたい。	
	(総務・情報部) ○学校内外の広報活動を推進し、本校教育の理解と啓発を図る。 ○情報機器の適切な維持・管理に努めると共に、iPad等の情報機器を用いたICT教育を推進し、生徒及び教職員の、社会人として必要な情報リテラシー(情報活用能力)の習得・向上を図る。	○手話啓発ポスターや校内掲示板での広報活動に物足りなさがある。もっと多方面に周知してもらおう方策を模索する必要がある。 ○ICT機器の活用場面や内容の幅は広がってきたが、より有意義な活用の仕方の模索が求められる。また、ICT機器の活用に関して、教職員の日々の困り感を解消するための効率的な支援方法も併せて模索する必要がある。	○手話啓発ポスターと校内掲示板の広報手段の改善を行うことで、多方面への周知を促す。 ○ICT機器の活用に関して、教職員の日々の困り感を解消するために、より効率的な支援方法を設ける。	○手話啓発ポスターを掲示及び配布する場所の見直しと拡大を図る。校内掲示板に関する情報や一見の促しを、ノーツの掲示板等を活用して行う。 ○昨年同様、情報研修会の事前に教職員のICT機器の活用に関するニーズをアンケート等で把握し、それに即した研修会の内容を設定する。また、日々のICT機器等に関する困り感に対しては、専門機関との仲立ちをしながら、ノーツ掲示板での情報提供、総務・情報部員による個別のニーズの聴きとりやアドバイスなどで、課題解消のための支援を行う。	○校内掲示板に関する情報をノーツ掲示板で定期的にお知らせしたことで、多くの方に見ていただくことができた。手話ポスターは、早め早めに制作したことでスムーズに掲示することができた。また、交流でお世話になった公民館にポスターを届けることができた。 ○情報研修会を夏季休業中に実施したが、職員間でそれぞれのICT機器の活用に関する実践発表を聞き合うことができ、充実した内容になった。また、仮想環境下におけるHPの作成の仕方について、ノーツ掲示板や個別にマニュアルをお伝えしたことで、教職員のICT機器の活用力の向上に繋がってきている。	○手話ポスターを掲示及び配布する場所に関しては、まだ改善の余地を残しているため、今後もより良い形を模索する。 ○引き続き教職員のICT機器の活用に関するニーズや困り感を把握し、より効率的な支援方法で課題解消のための支援を行う。	B	
	(生活安全部) ○学校保健計画、学校安全計画、学校給食計画を3本の柱として、心身の健康、交通事故や災害からの安全確保、健康的な食生活について様々な行動を計画し、生活安全部の職員、学級担任を中心に指導を行っている。	○学校保健計画、学校安全計画、学校給食計画を3本の柱として、心身の健康、交通事故や災害からの安全確保、健康的な食生活について様々な行動を計画し、生活安全部の職員、学級担任を中心に指導を行っている。	○心身の健康、交通や災害からの安全確保、健康的な食生活について理解を深め、健康で安全な生活習慣が身につくように日常的かつ継続的に指導に取り組み、幼児児童生徒の実践力の向上を図る。	○学校保健計画、学校安全計画、学校給食計画の中から本年度の重点取組項目を8項目決定し、事前の打ち合わせと事後のアンケートや部会による振り返りを通して、課題を明確にし、その後の取組に活かせるようにする。	○各年間計画に従って学習、行事に取り組んだ。昨年度の反省を生かしながら、改善を加え、実施した。事後にはアンケートを集約し、次年度への課題を明確にして、来年度へ引き継ぐようにしている。 ○不審者対応訓練では、不審者が校内へ侵入したときに職員がとっさに行動がとれるよう、より実践的な訓練内容へ見直しを行った。問題点を全職員で話し合い、子どもたちを守る体制や安全設備の見直し、施錠のできる部屋の配置についても検討していく。 ○中学部の防犯ブザーの導入や、熱中症計の数を増やすなど、児童生徒が快適に学校生活を送ることができるよう取り組みを進めている。 ○JR、バスでのマナーアップ活動を行った。また、下校時にバス停で安全指導を行った。	○アンケート集約を元に、交通安全教室や災害に対する避難訓練をよりよくし、また全校遠足や職員研修が充実したものになるよう部会内で具体的に話し合い、来年度の改善へつなげていく。 ○今後も安全装置の整備や施錠のできる部屋を増やすよう取り組みを進めていく。 ○JR、バスでのマナーアップ活動は新しい試みなので、しばらく継続して様子を見ていく必要がある。今後も継続していく。 ○11月の歯科検診に合わせて、問題のある対象児童生徒への個別指導を行う。	B	

	<p>(進路)</p> <p>○キャリア教育や進路に関する情報を発信する。</p> <p>○実態や発達段階に合わせて、社会人として必要な力をつけていけるようにする。</p>	<p>○各学部で取り組まれているキャリア教育の内容が他学部要充分に伝わっていない。</p> <p>○最新のキャリア教育の動向について知る機会が乏しい。</p> <p>○卒業生の状況について知る機会が少ないため幼児・児童・生徒に還元して十分に活かすことが難しい。</p>	<p>○進路だよりを発行し、各学部のキャリア教育取組状況の共通理解を図る。</p> <p>○最新のキャリア教育についての研修会の内容や進路担当が発信する情報を活かして幼児・児童・生徒の指導や支援を確認・工夫・改善している教職員数6割をめざす。</p> <p>○先輩の話を聞く会や生徒向けの進路研修会の内容を指導や支援に活かしている教職員数6割をめざす。</p>	<p>○毎月、進路だよりを発行する。</p> <p>○キャリア教育研修会を実施する。</p> <p>○掲示板等で「求人状況」や「進路に関する最新情報」を発信する。</p> <p>○中高等部が実施する「先輩の話を聞く会」や高等部の「進路研修会」の内容をDVD回覧等で他学部の教職員にも周知する。</p>	<p>○ほぼ毎月、進路だよりを発行し、各学部のキャリア教育の取り組みや進路関係の行事の報告をすることができた。</p> <p>○県教委の奥田指導主事より最新のキャリア教育について全職員が研修を受けた。</p> <p>○学校に送られてくる進路関係の情報はその都度発信した。</p> <p>○進路研修会のビデオ撮影については講師の承諾を得ることができなかったため、DVD回覧ができなかった。</p>	<p>○進路だよりに記入欄を設けてはいるが、保護者の意見や感想を吸い上げにくいので、個別に聞いたり保護者研修会等で呼びかける。</p> <p>○今後も職員のニーズを吸い上げて研修の内容を考える。</p> <p>○今後もノーツ掲示板や進路室前の掲示等で情報発信する。</p> <p>○研修会に参加できなかった教職員については進路便り等で情報発信する。</p>
心身の健康と豊かな自己表現力の育成 (心身の育成)	<p>(自立活動部)</p> <p>○自立活動の指導を円滑かつ効果的に行うことができるよう、環境や教材教具、年間指導計画の整備に努めるとともに、専門性を高めるための職員研修を行う。</p>	<p>○発音、言語、聴能に関する職員研修を行っている。</p> <p>○補聴環境の整備のため、聴能関係の道具の管理や点検、補聴器店による定期点検の日程調整を行っている。</p> <p>○自立活動の指導に関わる教材教具の整理や、教科と自立活動の関連が記録しやすい年間指導計画の使い方提案し、2年目を迎える。</p>	<p>○職員一人一人が、自立活動(聴覚障がい)に関わる専門性を高め、学校全体で教材、教具を共有、活用し、教科の枠を越えて、自立活動を踏まえた指導にあたる。</p>	<p>○補聴環境の整備のため、聴能関係の道具の管理や点検、補聴器店による定期点検の日程調整を行う</p> <p>○自立活動の専門性を高めるための全体研修会を年3回、経験や指導の頻度に応じた発音指導勉強会を年5回行う。</p> <p>○学部を越えて、教材教具を共有できるように、教材フォルダの整理や教材教具の管理を行うとともに、管理場所の一覧表を掲示する。</p> <p>○教科と自立活動の関連が記録しやすい年間指導計画を実際に使って指導を行い、必要に応じて、より使いやすい形に改善していく。</p>	<p>○補聴環境の整備のために、東神補聴器店(毎月1回)と補聴器サービスタ(2か月に1回)に来校していただき、定期点検を行った。</p> <p>○6月の発音研修会(講師:板橋先生)では、各学部の発音指導の場面に関する指導助言を受ける場を設けた。7月は、本校の子ども数名が装着している補聴器メーカーであるリサウンド社より、補聴器の有効な活用方法の説明を受けた。</p> <p>○学部を越えた教材教具の共有を図るために、教材の管理場所の一覧表を教務室に掲示したり、教材フォルダの活用に関する説明をしたりしたが、1学期の始まりということもあって、活用が少なかった。</p> <p>○4月より、教科の枠を超えた自立活動の年間指導計画の作成や活用に協力いただき、1学期終了後には色々な意見が挙がったが、年計の意図や必要性については理解いただけている。</p>	<p>○補聴環境のさらなる整備のために、定期点検は継続していく。聴力測定室の環境をS Tの助言を取り入れながら、より適切な設定を行う。</p> <p>○聴能研修のアンケートでは、実践的な研修を受けたいという希望が見られた。次回は教員の経験年数や専門性を見極め、入門と応用といったグループ別の実践的な研修を企画する。</p> <p>○学部を越えた教材教具の共有をさらに図れるように、教材の管理場所の一覧表の場所や教材フォルダの活用に関する再説明をする。</p> <p>○1学期終了後に挙がった様々な意見をはじめ、各学部の意見を集約し、より簡潔に記入しやすい形式になるよう協議したり、修正を重ねたりして、3学期中には修正案(形式)を再提案する。</p>
	<p>(生活安全部)</p> <p>○児童会・生徒会において、児童・生徒が計画に基づいて見通しを持って活動していけるように指導・支援する。</p>	<p>○児童会・生徒会役員になった児童・生徒は、その責任を果たそうとしている。</p> <p>話し合いにおける活発な意見交換や見通しを持って活動を進めていくこと、また個々の意見を取り入れてより良いものにまとめ上げていくことについてはまだ教職員の支援が必要である。</p>	<p>○児童・生徒が自ら計画を立て、児童会・生徒会の運営を行う。学校生活の充実と向上のために問題を協力して解決できるように生徒会長や生徒会役員を支援する。</p>	<p>○児童会・生徒会の年間計画を作成する。役員の児童・生徒を中心に話し合いを行うときは、話し合いの進め方に関する助言を行ったり、具体例を提示することで生徒が選択や決断を下すことができるよう支援を行う。</p>	<p>○児童会では教員の助けを借りながら、2人の上級生が下級生を引っ張って毎月の目標を考えたり、係の仕事を決めて活動する様子が見られた。生徒会においては年間計画を作成し、生徒会員の活発な意見のやり取りや、前向きな話し合いができるよう支援した。仕事分担や週番活動も相談し、全員参加で行う姿が見られた。</p> <p>○全校遠足では生徒会で新しいレクリエーションを企画し、教職員の助言を受けながら準備し、全校で楽しむことができるよう工夫を凝らした。</p> <p>○中ろう体に向けて各自が目標を設定し、苦手な部分を重点的に練習できるよう支援を行った。生徒は最後まであきらめずに目標達成に向かって頑張る姿が見られた。</p>	<p>○今後も引き続き、児童・生徒を中心とした活動を行い、様子を見守りながらよりよい話し合いができるように助言や支援を行う。</p> <p>○ボランティア活動として生徒会でバス停周辺を掃除し、地域に貢献したいと考えている。また、球技大会や卒業生を祝う会の運営も生徒会主体で行えるよう、支援を行う。</p> <p>○来年度の中ろう体に向けてそれぞれがより高い目標を立て、意欲的に活動に取り組めるようにする。</p>

評価基準 A: 十分達成(100%) B: 概ね達成(80%) C: 変化の兆し(60%) D: まだ不十分(40%) E: 目標・方策の見直し(30%以下)